

関西エアポートの運営概況と 最近の取り組み

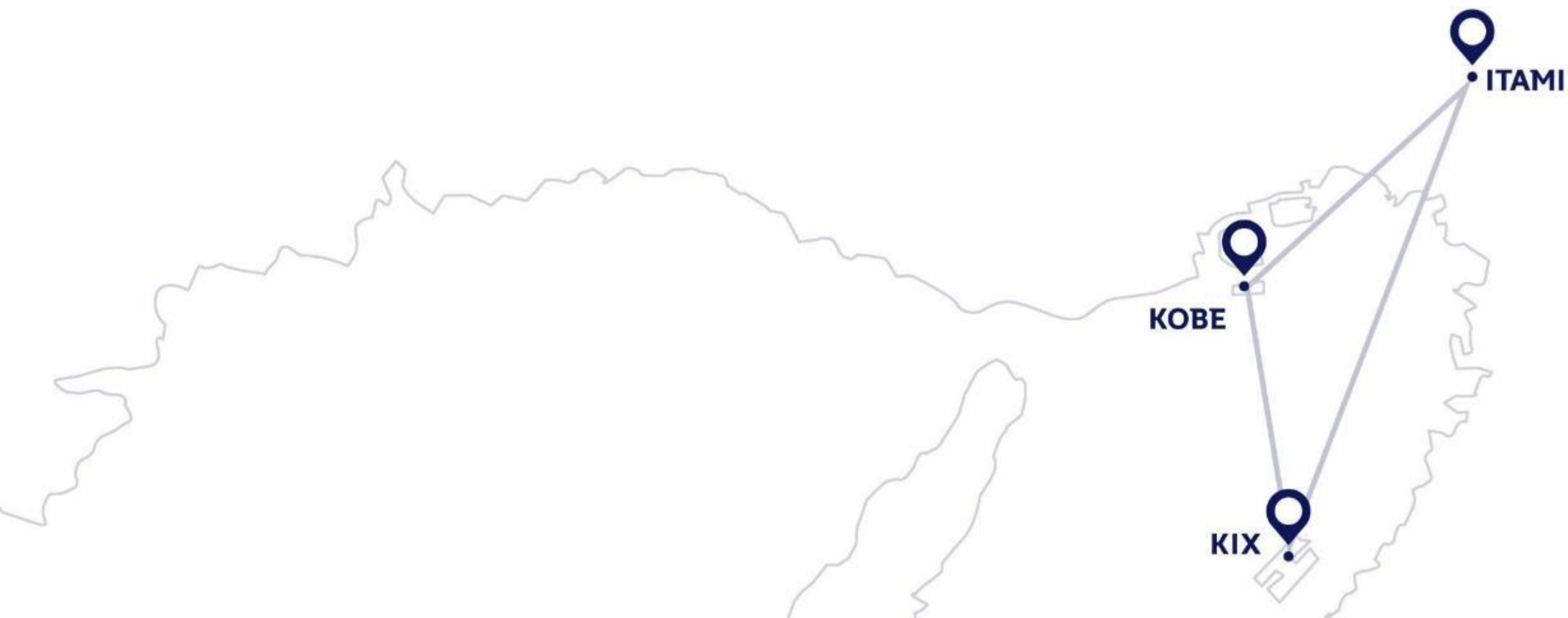
2026年8月3日 空港技術懇話会

Shaping a New Journey



- 1. 関西3空港の概要と旅客動向**
- 2. BHSシステム更新工事のご紹介**
- 3. T1リノベーション工事のご紹介**
- 4. 環境の取り組み（太陽光・水素）**

関西3空港の概要と旅客動向



関西3空港の概要（2025年度実績）

Restricted

神戸空港（UKB）

旅客数	417万人（前年度比+16%）
運用時間	16時間（7～23時）
滑走路	1本（2,500 m）
発着回数	3.7万回（前年度比+10%）
その他	海上空港、面積：156ha

KOBE



ITAMI



大阪国際空港（ITM）

旅客数	1,629万人（前年度比+5%）
運用時間	14時間（7～21時）
滑走路	2本（3,000 m & 1,828 m）
発着回数	13.8万回（前年度比+1%）
その他	都市型空港、面積：311ha



KIX

関西国際空港（KIX）

旅客数	3,355万人（前年度比+6%）
運用時間	24時間
滑走路	2本（3,500 m & 4,000 m）
発着回数	20.7万回（前年度比+4%）
その他	海上空港 面積：510ha（1期島） / 545ha（2期島）



2025年度 発着回数合計
38.1万回
(前年度比+3%)



2025年度 旅客数合計
5,401万人
(前年度比+6%)

直近の旅客数の動き（暦年比較）

KIX

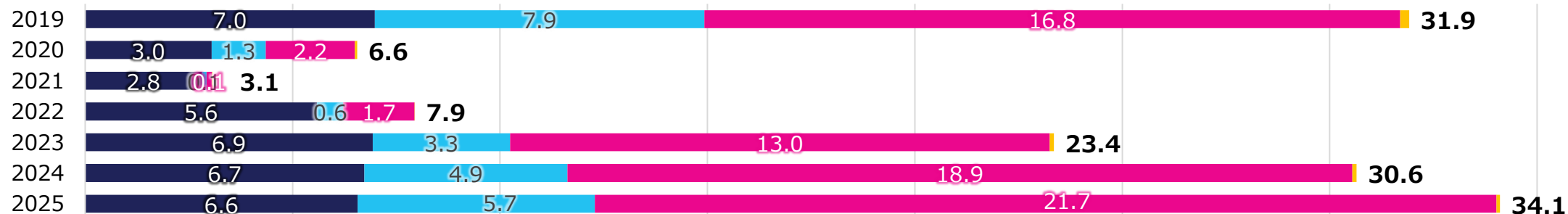
■ 国内線

■ 国際線：日本人

■ 国際線：外国人

■ 国際線：通過客

(百万人)



ITAMI



KOBE

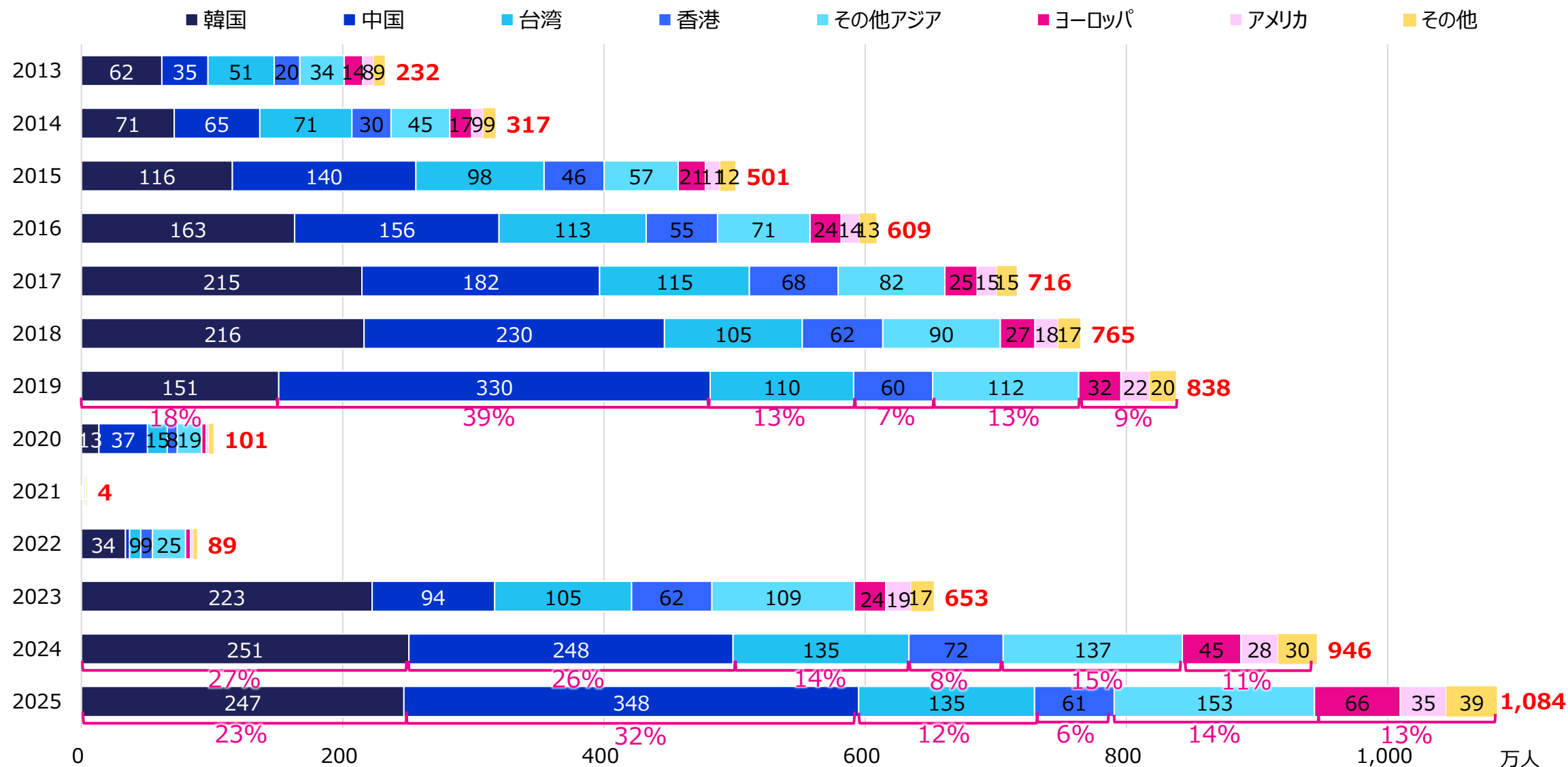


3空港合計

2019年 5,178万人
 2020年 1,586万人
 2021年 1,147万人
 2022年 2,217万人
 2023年 4,154万人
 2024年 4,938万人
 2025年 5,401万人

関西国際空港 入国外国人数（暦年比較）

Restricted



BHS更新工事のご紹介

資料共有は懇話会参加者限り

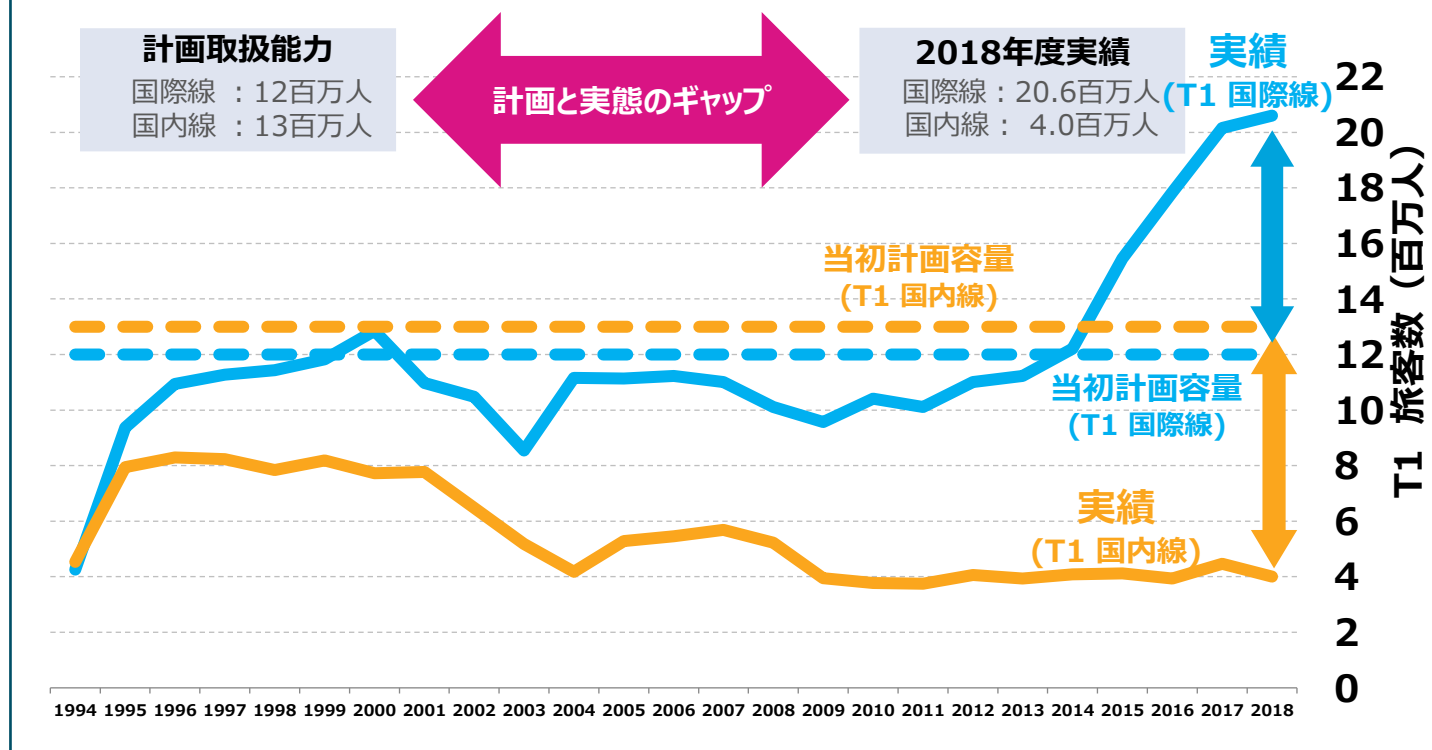


T1リノベーション工事のご紹介



T1リノベーション ～国際線キャパシティ拡大に向けて～

背景 第1ターミナルビルの運用状況



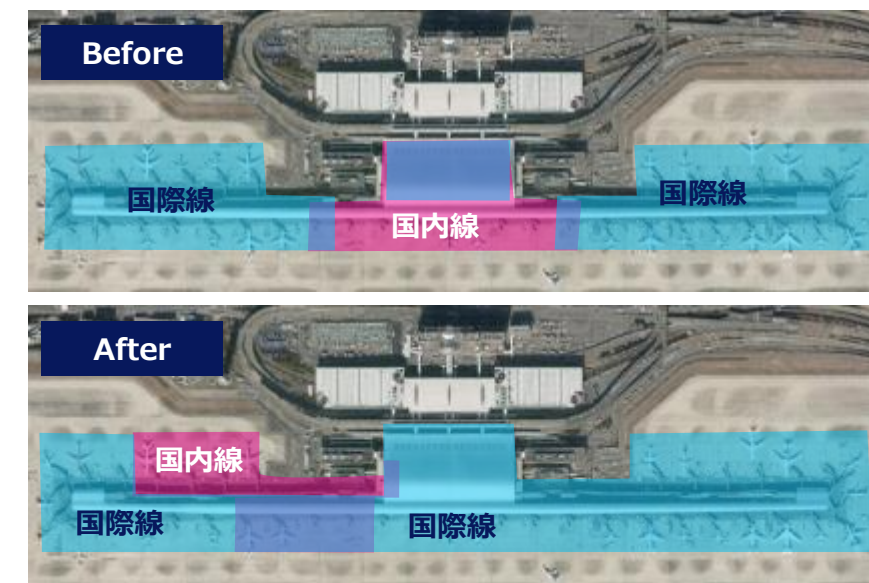
ギャップを解消し、既存のターミナルビルを最大活用

➤ 国際線キャパシティの拡大

リノベーションにより、T1とT2合わせて
約4,000万人の国際線キャパシティ創出をめざす
T1の国際線/国内線エリア配置の見直し

➤ エアサイドエリアの充実

国際線出発エリア（中央部）が約60%拡大



➤ 旅客体験の向上

ファストラベル等により、早く快適な出発手続きに
国内線エリアにおける商業店舗拡充
国際線出発エリアは異なる雰囲気的空間を提供 等

T1リノベーションのスケジュール

2022年10月26日
新国内線エリア
オープン

Phase1



2023年12月5日
新国際線出国エリア
中央エリアオープン

Phase2



2025年3月27日
グランドオープン（主要機能完成）

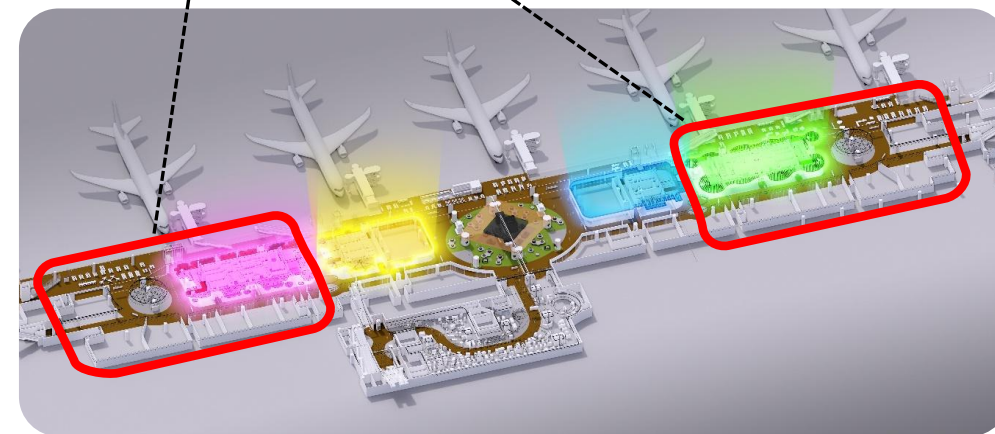
- ・新国際線保安検査場
- ・新国際線入国審査場
- ・新国際線ラウンジ

Phase3



Phase4

2026年6月
新国際線出発エリア
南北商業施設の拡張

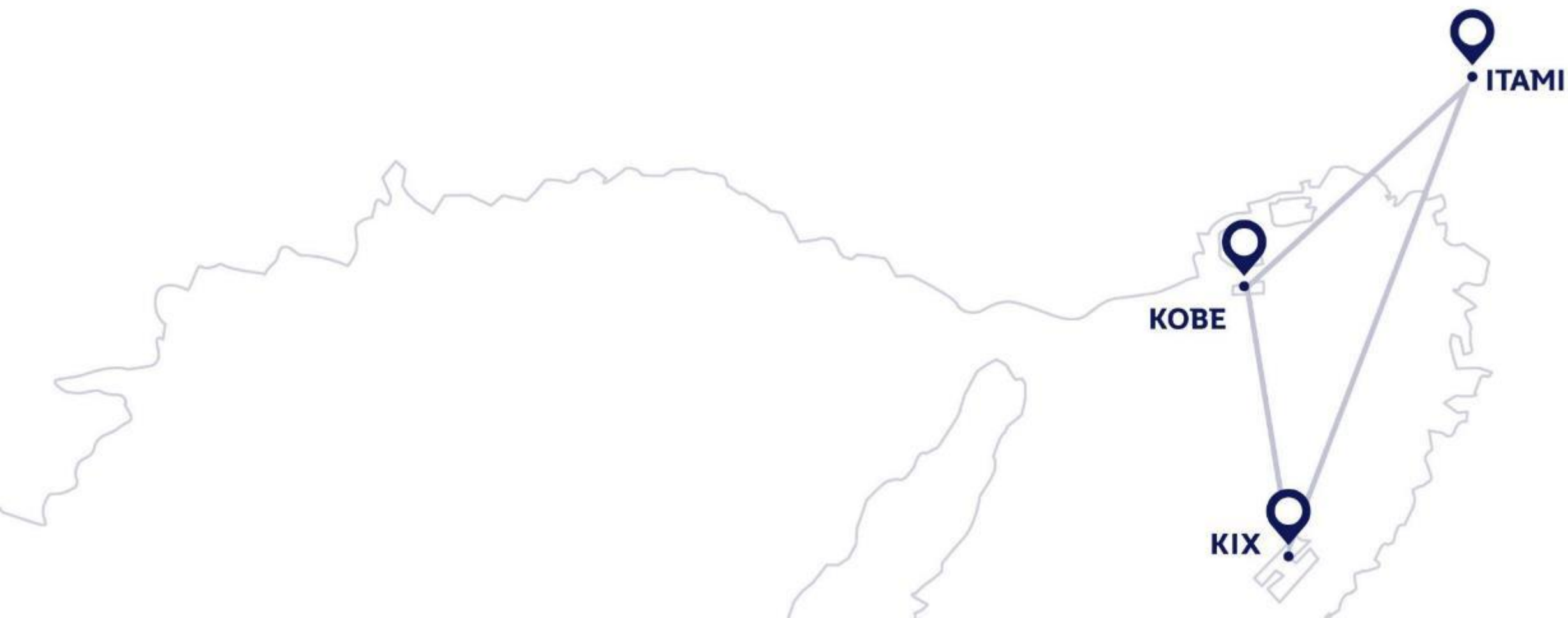


国際線商業エリアの拡張（2F）

Restricted



環境の取り組み（太陽光・水素）



関西エアポートグループ ～ 環境ビジョン2050・環境目標2030 ～



Restricted

環境理念と環境基本方針に基づき、「環境ビジョン2050」を策定

「環境ビジョン2050」では関西エアポートグループが長期的にめざす姿を、
「環境目標2030」ではその達成に向けたマイルストーンとなる具体的な目標を設定しています。



再生可能エネルギーの導入 KIX・ITAMI Sora×Solar[®]

Restricted



2025年2月～稼働開始！ 国内空港最大の発電量

- ✓ オンサイト型 PPA 方式を採用
- ✓ 発電された電力はターミナルビルをはじめとする各空港内施設で自家消費

年間発電量

(KIX・ITAMI合計28.4GWhの見込み)
(一般家庭約9,000世帯相当)

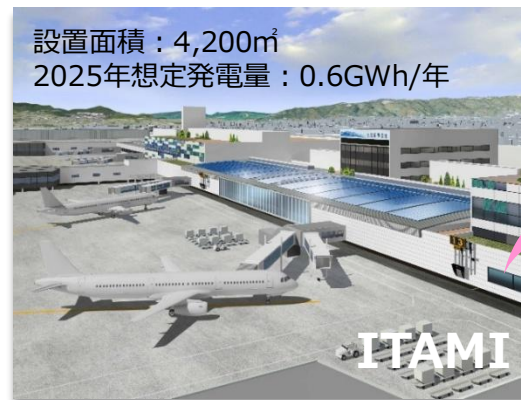
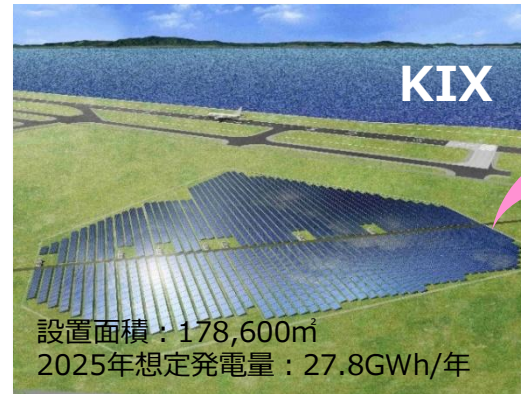
関西エアポートグループの年間消費電力

- ・関西国際空港：約**23%**に相当
- ・大阪国際空港：約 **3%**に相当

CO2削減量

(年間約1.2万トンの見込み)

関西エアポートグループ
CO2排出量の約**15%**に相当



計画時のイメージ図

* 本事業は、国土交通省航空局の「令和5年度空港脱炭素化推進事業費補助金（設備導入支援）」の支援を受けている

** オンサイト型 PPA（Power Purchase Agreement）：

発電事業者（Kパワーサプライ合同会社）が、需要家である電力使用者（関西エアポートグループ）の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用により設置し、所有・維持管理をした上で、発電設備から発電された電気をその需要家に供給する仕組み

KIX水素グリッドプロジェクト（2012年～）

Restricted



空港における水素グリッド（イメージ図）

■ ■ ■ 導入済

□ □ □ 未導入

*2025年時点



燃料電池車両：2台導入



水素ステーション（KIX）



産業車両用水素ステーション
（国際貨物地区）



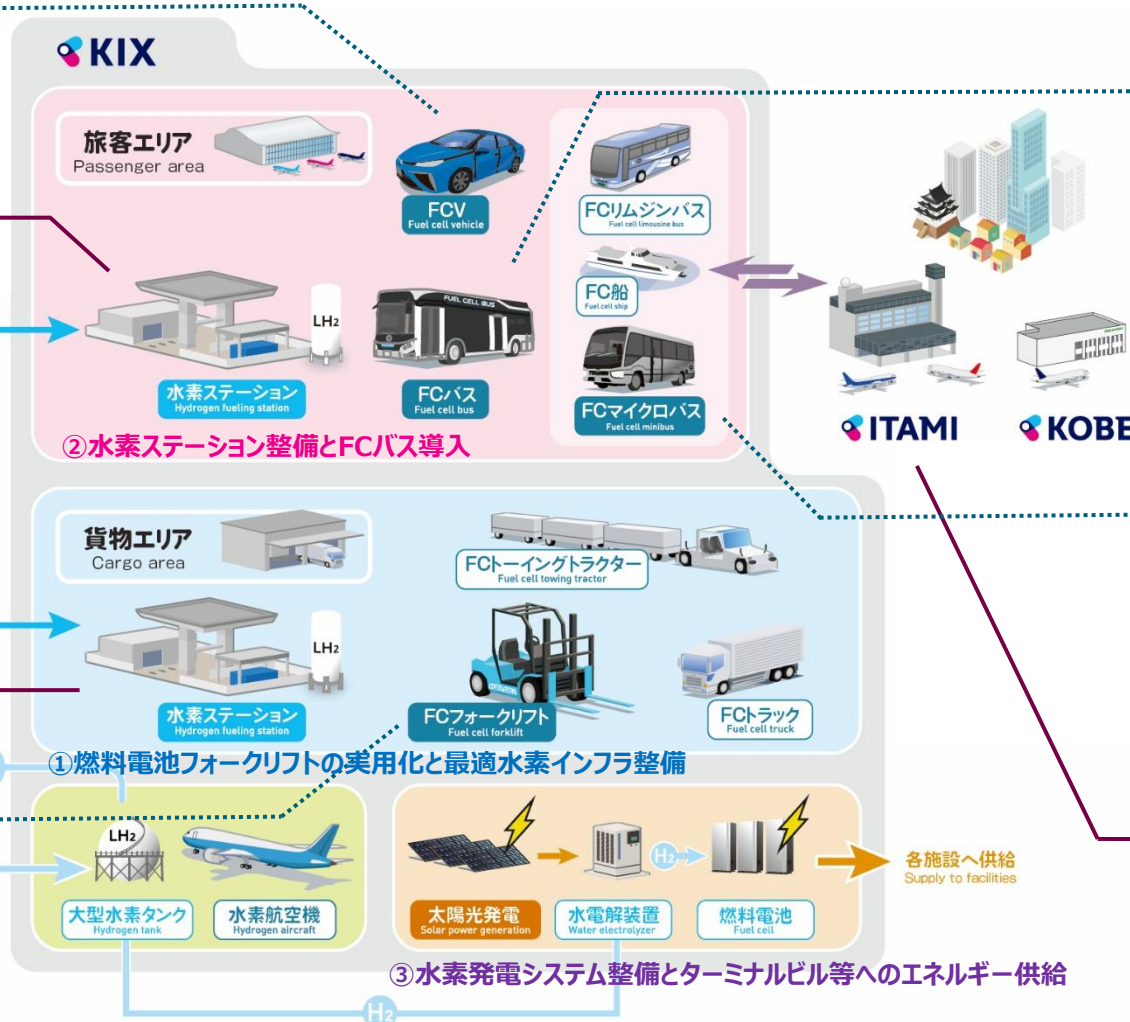
燃料電池フォークリフト：21台導入



液化水素ローリー
Liquid hydrogen trailer



液化水素運搬船
Liquid hydrogen tanker



燃料電池バス：1台導入



燃料電池マイクロバス：1台導入



水素ステーション（ITAMI）

本日の視察予定地

Restricted

